



ケ 5  
68  
4







甲陽軍鑑全集 卷十四

犂牛之卷

一 利根とては大将付お茶上校并川中流合戦物語の事  
 先二番利根とては大将父助がしぬ事有安してあり安  
 兵分利とては意願する故大身中勇小身在まわやまより多邪  
 飲涼されぬれぬの初りとも意願するしとてしらの法行等  
 とめ初り百貫とては六課役と無事費と術と又子費の行六  
 女又費とを合負むとて字下されぬ法と百姓とては未だ困窮の存も  
 なくとも利根造とては利根中とては利根中とてはふひとら  
 うしとておやとては武具馬具とては徳徳道とてはふひとら  
 左所人百姓借物の利根或は徳徳の法とては無縁とては徳とては  
 徳ひ善又堂又建立とては慈悲結縁の法とてはあへんかんせぬ  
 根根より人氏とては徳温氣室天風風の徳とては打擲ヒキ並自徳を

甲陽軍鑑

十四















上皇事久のぶしとささく別してをりりりかきもあか  
けりし勅とま守りて。時又代りてはかきりり大身は志也を  
二代三代代十代の大將が九まひへ。後子孫の我代は仕わ  
大右の天乃れ勅新よりへ。もつる危働さるる死より際まで  
たい西理運之共舟もろく代に懐らさる大右の危之働き  
志のひての空を接しやせりのあつるをむれたるも代に  
を介さるるしはしき言也と知也。利根さるる大右の  
か別して何事もろく別する大右の利根さるる  
身存りしはしき言也と知也。利根さるる大右の  
介とせはしき言也と知也。利根さるる大右の  
合めりし言也。明言新物とは出さるる。明言の役と  
と合めりし言也。明言新物とは出さるる。明言の役と

町寺もまきても後子ありて出せ作釘さるるしよよか  
いし給へされは付地下町の知限も徳をの物さるるし  
へまひ女んをさるるし。是れ樹木の役作の事多  
道侵布使と徳をの物さるるし。是れ樹木の役作の事多  
告をさるるし。是れ樹木の役作の事多  
上利根さるる大將利根源多れ。玉斜悦町人地下人の言  
也。是れ樹木の役作の事多  
知り給へ。是れ樹木の役作の事多  
をさるるし。是れ樹木の役作の事多  
費のくや。是れ樹木の役作の事多  
是今の言也。是れ樹木の役作の事多  
かとも。是れ樹木の役作の事多







樹と思ふべし。もふく成家市ノ一ノ志。お取俾名おふも也  
 之徳をこゝろ人とのめんとなむ。其徳實物とされど。一は  
 もんと思ひ。徳實のさき忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 仍も。枝持徳と。もんと思ふ。其徳實物。使使れ。まこと  
 て。徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 と。もんと思ひ。徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 といへ。も。後。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 なる。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 あり。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 ると。業。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 方。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 兄。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと

あり。十六歳。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 其公。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 名。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 姉。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 つ。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 一。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 後。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 其。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 忠。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 其。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと  
 付。其徳實のさき。忠功。其徳實物。使使れ。まこと



















先づ父を敬愛し科あるを志せしを依りて終は身を以て  
給へ利根遠く有り大將果して八厘の志中<sup>ニ</sup>之故に官を以て  
て一巻とし。君子聲年此事とて名付たり。ばま道長は終  
結くも別を二。商人志成して信流此条賣商人らんと。終  
つていんとおん人の信を云代母の流り此意を云り。また  
八尾村新島信州の。此宗叔は他東三年の事。此の流り  
とて移りて今とて痛りや三枝劫の事。此の流り。此の  
名て我未<sup>ニ</sup>終まつ。尚書傳記此の流り。此の流り。此の流り。

天正三<sup>し</sup>年六月吉日

長坂納用  
治<sup>り</sup>大坂助<sup>り</sup>

甲陽軍鑑全集 卷四終



